甲武鐵道

甲武鐵道は東京市飯田町より起り牛込、市ケ谷、四谷、信濃町四停車場を過ぎて新宿に至り是より西を指し一直線に南多摩郡八王子に達す此の延長二十六哩七十六鎖とす、右の内飯田町より新宿までは所謂市内線に屬し近傍の神社佛閣多からざるにあらずと雖も東京市内の案内は別に其書のあるあり玆に之を縷述するは繁雜に堪へざるを以て直ちに新宿より案内の筆を起すべし

◉新宿停車場（東京府武藏國南豐島郡角筈村）

此處より二方に岐るゝ支線あり一方は西北に岐れて赤羽停車場に至り東北鐵道に絡連し又一方は南方に岐れて品川停車場に至り東海鐵道に聯絡す故に東海東北の二幹線は此の支線に依て繫がるゝものと知る可し

○内藤新宿　此驛の景況は東北鐵道の部に明記したれば就て看るべし

又近傍の名所舊跡は都て東海線新橋の部に讓りて別に記さず

◉中野停車場（東京府武藏國東多摩郡中野村）

○中野町　は新宿を距る二哩六十四鎖の所に在り東京府下豐島郡と多摩郡との郡界にして今は東多摩郡に屬せり往時は此より二十町許り北の方阿佐ケ谷の地に明王山寶仙寺といふ眞言宗の大刹ありしも大永の比兵燹に罹りて今はあらず其外中野七塔などといふ舊跡もありし由なるが今は何れに在るや知り難し或は曰ふ中野通りの右側叢林の中に三層の塔ありこれ七塔の一ならんと

堀の内祖師　中野停車場より十五六町の南堀の内村日圓山妙法寺に在り本尊は日蓮上人の像にして世に除厄の御影と稱す日蓮宗一致派に屬し堂塔の壯觀東都屈指の大伽藍となす、往時は碑文谷の妙法華寺に在りしを元祿の比故ありて法華寺を天台宗に改めしかば此像を當寺に移したりといふ諸國より信者の參詣引もきらず就中毎年十月十三日には會式を執

行するを以て當日の群集名狀すべからず

新井藥師　中野停車場より北の方五六町新井村の梅稱院に在り俗に子育藥師と呼び參詣する者多し毎月十二日を緣日とす

幡ケ谷不動　中野停車場より北の方十町許りの所に在り眞言宗光明山莊嚴寺に安置す本尊不動明王の像は智證大師の作にして往昔江州三井寺を創建の時彫刻の靈像なりと云へり東京よりの順路は汽車に乘らざる方却つて便利なるべし

◉荻窪停車場（東京府武藏國東多摩郡荻窪村）

荻窪村　は上荻窪下荻窪の二つに分れ停車場は下荻窪に在り一小村落にして記すべきほどの事なく唯近傍に井の頭の辨財天あるのみ

井の頭辨財天　荻窪停車場と境停車場の間牟禮村に在り故に東京よりは荻窪にて降り八王子よりは境にて降る可し此間の道程何れよりしても二哩以上とす此に長さ西北より東南へ曲りて三百歩許り巾百歩餘りの大

池あり之を井の頭の池と唱へ神田上水の泉源なり池中に清泉涌出する所七ヶ所ありて如何なる旱魃にも涸る事なしとて世に七井の池ともいふ辨財天は其池の中島に宮居す本尊天女の像は傳敎大師の作なりといふ傳へ聞く正慶年間新田義貞鎌倉と對陣の時當社に軍勝利を祈念し北條家を亡ぼしたりと境内には御場式の柳（聖天堂と後に在り）臥龍の藤、三ッ柳などあり西北の丘陵を今御殿山といふ此地最も靜閑にして樹木多く暑中納涼には最も妙なり

◉境停車場（東京府武藏國北多摩郡境村）

境村はまた一小村落にして記すべき事なし唯是より南二十町ばかりにして名高き深大寺村（今は深大村と改む）あり

深大寺村　は何が故に名高きか土地には深大寺（今は頽廢して僅かに一草庵を存す）といふ一小刹あるのみにして觀るべきもの一もなし其名高き所以は此地より產出する蕎麥を深大寺蕎麥と稱へ都人士に賞玩せら

るゝに在り然ども此地に於て最も蕎麥に適する地面は僅々六畝歩許りにして素より都人士の口腹を飽しむるに足らず唯その名高きが故に茲に附記するのみ

小金井の櫻　多摩川上水堀兩岸の芝塘に在り櫻樹連亘小金井村外九ケ村に及び西は小川村に起り東は境村に盡く其間凡そ五十七丁餘ありとい、ふ此櫻は享保年間郡官川崎定孝なる者台命を奉じ和州吉野山、常州櫻川等の地より移植し當時は其數一萬餘株の多きに達せしとぞ、近年甲武鐵道の開くるに及び境村近傍の有志者相謀りて停車場最寄まで櫻花を連續せしめんと欲し新樹千餘株を栽繼しかば更に一層の美を添ふるに至れり此花毎年四月十五六日より二十日比までに開くを通例とし墨田、飛鳥山より遲るゝ事四五日なり最佳境は小金井橋を中心とし西は喜平橋、東は梶野橋までとす、開花爛熳の時小金井橋に起て眺望すれば雪とちり雲とまがひて一目千里前後盡るところを知らず千蔭翁の歌に「聞わたる天の

河原か咲花の雲の中行く水のひとすぢ」誠に能くその光景を寫せしもの と謂ふべし東京より行くには境停車場にて降り北五六丁にして直ちに花の所に至るべし故に此處より見物して次第に西に至り國分寺停車場まで上り列車に乘りて歸京するも好く又之を顚倒して國分寺に降り境に乘るも好し何れにしても損益なかる可し又飲食店は小金井橋畔に柏屋外數戸あり就て飲べく憩ふべし

○田無町　は境停車場より北廿五六町にして青梅街道中屈指の驛市なり戸數五百、人口三千餘、一六の日には古着其他の市あり最も多く麥粉を製し東京へ輸送する者日々數十駄の多きに及ぶといふ

●國分寺停車場（東京府武藏國北多摩郡國分寺村）

醫王山國分寺　國分寺停車場を距る南七八町のところに在り藥師の像を安置す堂内に金光明四天王護國之寺と題する額を懸けたり、聞ならく聖武帝の朝毎國に國分寺を置く曰く金光明四天王護國之寺、曰く法華

滅罪之寺、而して水旱の患を禱禳し災兵を止め疾病を遠ざけ國家安全を祈らしむ即ち國分寺は金光明四天王護國之寺なりしが元弘の兵燹にかゝりて焦土となり其後今の小刹を建立し國分寺を村の名として舊跡を存したりとぞ今尚ほ古瓦の缺損せるもの徑畔に堆積し又は路上に散在する者甚だ多し其質堅牢にして石の如く布目の跡あるを以て之を布目瓦と稱へ此處に遊ぶ者持歸る者多し又巨石の半ば埋もれて田圃の間に點々たるを見る是れ所謂る七堂伽藍の礎石なりしといふ是より東五六丁を距てゝ貫井辨財天の祠あり

貫井辨財天　は貫井村に在り（今は小金井村に合し大字貫井といふ）祠は丘の半腹に在り境内には樹木繁茂し丘上に登れば遠く富山函嶺の諸山を望み景色絶佳なり又小池あり鯉魚游泳し常に清泉湧出し流れて瀑布となるを以て夏は暑さを避るに好し是より南二十丁許にして府中驛あり又大國魂神社あり

○府中驛　甲州街道中八王子に次ぐの市驛にして戸數一千餘、人口六千餘、市を別つて十とす曰く神戸、曰く新宿、曰く番場、曰く片町、曰く屋敷分、下河原、京所、八幡宿、分梅、芝間、町内に北多摩郡役所あり警察署あり郵便局あり又丸山公園あり神社佛閣にして名ある者は曰く官幣小社大國魂神社、曰く高安寺、曰く安養寺、曰く明光院、曰く善明寺、曰く稱名寺等なり貸坐敷七戸あり娼妓藝妓等を養ふ毎月一七の日市を開き古着生糸其他雜品を鬻ぐ旅店の重なるは中屋、松本屋の二軒にして何れも大國魂神社の前に在り共に料理を兼業す夏時多摩川に鮎漁を試みんと欲せば此の兩家にて案内すべし

大國魂神社　府中驛の中ほど新宿と神戸の間南側に在り官幣小社にして初め武藏國惣社六所宮と稱へ本社祭神は大己貴命なりといふ其鎭座次第を聞に中殿には大國魂大神、左右に御靈大神、國内諸神、又西殿には六宮杉山大神、五宮金佐奈大神、四宮秩父大神、又東殿には一宮小野

大神、二宮小河大神、三宮氷川大神等とす宮殿は奥殿拜殿共に結搆壯麗なり、境内は頗る廣濶にして老杉鬱爾として枝を交へ其中に一松樹を見ず此神松樹を忌み給ふと云ひ傳へ鄉人正月に松飾りを爲さず竹のみを用ふ奇と謂ふべし社頭の大門は府中驛を横ぎり北の方八町の長きに突出す昔しは其止まる所ろに一の華表ありしと云へど今はあらず八丁の間槻の並木あり皆數百年の老樹なり傳へ曰ふ康平五年源頼義義家奥州安倍貞任宗任一族征伐發向の時當社に詣で軍の勝利を祈願あつて夷賊平治凱歌の時報賽として栽うる所なりと云ふ、又毎年五月五日大祭を執行す之を提燈祭りと云ひ其式頗る盛んなり

谷保天神社　甲州街道谷保村に在り府中大國魂神社より西の方凡そ壹里許りの處ろなり、本社祭神は天滿大自在天神、一座神躰は菅家弟三嗣菅原道武朝臣の手刻にして社殿に懸る額面天滿宮の三字は後宇多天皇勅世尊寺經朝卿の筆なりとぞ又天曆の時村上帝狗犬一雙を寄附したまふ今

に存せり本社の後に道武朝臣の靈社あり境内は樹木鬱蒼として繁茂し最も幽邃の地なり

百草園　府中驛より西南壹里半許り南多摩郡七生村字百草に在り元は慈岳山松蓮寺と稱する禪林なりしが明治初年の頃火を失して堂塔悉く灰燼に歸し後遂に廢寺となり荒蕪に委せしを近時青木某氏の所有となり庭園を修理し櫻樹を栽ゑ頗ぶる風致を添へたり由て百草園と號す園内高き所に清涼臺八州ケ丘等あり又松蓮寺の碑あり蓋し其舊跡なり其外二王塚（松蓮寺の舊地より東南五丁ばかり山間の小高き所ろ松樹十株餘りある所ろをいふ）芭蕉塚、雨乞地藏、矢平ケ丘等の舊跡あり西の方山の半腹にある八幡宮は康平五年源頼義義家奥州征伐の時山城國男山八幡宮の社檀の土を穿ちて石瓶に盛來つて一宇の社を造營して勸請せしものなりと云傳へり調布の多摩川は眼下を流れて宛も一帶の布を晒せしに異ならず最も瞰望に富み富士筑波其他八州の諸山を一目に集むる等風色絶佳なり

又園内に養生館といふあり個は園主菅木氏の別莊なれども客の望みに依りては其坐敷を貸し又一宿を許すといふ別に喜樂亭と呼ぶ小料理店あり客の飲食を辨ず

◉立川停車場（東京府武藏國北多摩郡立川村）

立川村は多摩川の沿岸に在る一小村なり往昔上杉成氏と上杉憲顯と戰ひし舊跡なりといふ此地鮎漁に最も便なるを以て甲武鐵道の開設以來都下の人々此地に遊ぶ者著るしく增加せり依て先づ漁鮎を案内せん

多摩川鮎漁　武藏の多摩川は之を調布の多摩川といふ、此川香魚を產し毎年初夏の頃より晩秋の頃までを以て漁獲の好時期とす而して鮎漁の案内を爲す家多くありと雖も其内停車場前丸芝支店と招牌出したる茶店を以て最とす玆より東十二三町にして丸芝本店あり此家は土地にて有名の農家なるが年來鮎漁の事に慣れたるを以て甲武鐵道開設以來夏季は漁り一切の案内を爲し其奥坐敷を客間に充て料理をもなせり又鮎漁の仕方

に數種あり曰く鵜飼　曰く羽網、曰く筌、曰く投網、曰く友釣、別に屋根舟あり、屋根舟には客十人を容れ船中にて酒を酌み且捕り得たる香魚を直ちに料理して食するを得べし、就中最も興あるは羽網にて多き時は一回四五十尾の鮎を捕ふる事ありといふ今丸芝にて定めたる鮎漁賃金を聞くに左の如し

一鵜飼（引網付漁師三人添）一組金一圓五十錢　一羽網（待網付漁師八人添）一組金二圓五十錢
一筌（引網付漁師二人添）一組金一圓　一投網（漁師一人添）一反金五十錢
一友釣（漁師一人添）一人金三十錢　一屋根舟（船頭二人諸道具付）一艘金一圓

此の漁鮎は立川のみに限らず甲武線中國分寺停車場を降り府中驛に至り同驛の案内所に就き是より凡そ十町の南是政村近傍（即ち立川の下流）に於て爲すも可なり又立川を踰え日野停車場を降り日野河原に於て爲すも可なり唯だ遊ぶ人の便に任すのみ

普濟寺　立川停車場を距る五六町玉川の南岸芝崎村に在る古刹なり本尊は正觀世音、左右に十六阿羅漢寸大弟子等の木像を安置す中興大檀那

は立川宮内大輔と稱す當時境内北の方は往古立川宮内大輔の宅地たりしとなり數年合戰の地にして今猶林中に首塚と稱する物あるは其の古跡なりといふ其寺の庭より多摩川を望めば其風色百草園に在りて觀るに甚だ相似たり殊に鐵橋は眼下に在りて漁車の走るは長蛇に似たり此寺近頃客殿を修理し客の望みに應じて一宿を許すと聞けば一日の漁りに飽足らぬ人は此に來つて遊ぶも妙ならん

●日野停車場（東京府武藏國南多摩郡日野村）

日野村　は甲州街道の宿驛にして多摩川の南岸に在り立川村とは僅かに多摩川の一帶水を隔て其間二哩六鎖に過ぎず戸數五百、人口二千餘あり毎月六十の日市を開き米穀生糸繭雜品を賣買す此地又漁鮎に適す料理店玉川亭に於て案内すべし（漁業賃金は立川丸芝と同じ）近傍名勝舊跡の案内すべきなければ直ちに八王子に移らん

●八王子停車場（東京府武藏國南多摩郡八王子町）

○八王子町　は甲武鐵道の極端にして府下南多摩郡に在り町數十七、戸數五千餘、人口二萬許り東京より甲府に至るまで隨一の繁昌地にして市街の長さ三十町あり市中には地方裁判所、郡役所、警察署、郵便電信局、織物市場、生糸市場、織物講習所、蠶糸業取締所、茶業商會、國立私立の銀行其他二座の劇場ありて常に興行せり物産は織物を最とし生糸茶之に續ぐ先づ織物の重なる物を擧れば一樂織、糸織、博多帶地、縞八丈、八反、浮織、節糸織、明仙、絹木綿交織、其他甲斐絹、米國向のハンカチーフ等にして是等の物を製造するには重に島田糸を用ひ、坐繰器械などの糸は皆横濱に出して外國へ輸出し其高一ヶ年三千梱（一梱は九貫目餘）以上に及ぶと云ふ、旅店の重なる者は角屋喜兵衛（横山町）倉田屋庄右衛門（同上）山上十郎左衛門（八日市町）旅籠代は通常二十五錢なり、料理店は若松、萬林を以て最とし西洋料理には喜樂亭（横山町）あり

子安明神　八王子停車場より二三町北に在る古廟にて俗に此處を大明

神といふ境内には凡そ八百年も經たりといふ槻の大樹數多あり、此に内廣き古池ありて絶えず清水湧出し池に臨みて茶亭あり此處より四方見晴し好く閑靜云はん方なければ夏時は納涼又は螢狩に妙なり

散田眞覺寺　八王子停車場より南二十町餘、小高き丘の中ほどに在りて境内櫻樹多く彌生の頃は觀花の人群集す且つ風景に富むを以つて平素と雖も杖を曳く者多し又五月頃には毎年蛙合戰ありとて之を見んと來る者多しといふ

高雄山　八王子停車場より西の方二里十五町、南多摩郡上椚田村に在り夫より登り三十町頂上に寺ありて藥王院といふ、飯綱善神の祠は嶮峻なる石階を登りつめたる處ろに在りて彫刻巧を盡し彩色最も美なり石階を下りて左の方に護摩堂、藥師堂、大日堂あり、右に藥王院の坊あり境内には老杉枝を交へて空を蔽ひ又眺望を遮ぎるを以て更に見晴しなく四顧鬱爾として宛然仙境に入るの思ひあり又此山中に二個の瀑布あり一は琵琶瀧と云ひ飯綱善神より西南へ狹き山道を降ると十六七丁許りのところに在り瀧の高さ丈餘、傍らに茶店二軒あり休憩に便ず、又一は蛇の瀧と云ひ本道を降ると十町餘にして左方に折れ更に峻坂を降る十町餘の所ろに在り共に神經病を癒すに効ありとて發狂人の來り浴する者多し

川越鐵道

川越鐵道は甲武鐵道の國分寺停車場より分岐して北に向ひ埼玉縣入間郡川越町に達するものにして延長十八哩四十鎖、其間小川、東村山、所澤、入曾、入間川の五停車場あり

○小川停車場　（東京府下武藏國北多摩郡小平村大字小川）

小川村は青梅街道の一驛にして田無町を距る西一里三十町に位し今は小平村に屬す、近傍に名所舊跡なし

●東村山停車場　（東京府武藏國北多摩郡東村山村）

停車場は同村大字野口にあり、其北方北多摩、入間郡界に一丘陵あり東に亘ること二里餘、之を狭山といひ里人は尾引山と稱す、家隆卿が「ともしする狭山の峯の狩衣秋にもまさる袖の露けさ」と詠ぜられしは茲なり、又野口の西北十八町の處に古塚あり老松一株其上に成長し里人は呼んで將軍塚と云ふ、元弘三年新田義貞義兵を擧ぐるに際し越後、信濃の勢を此地に集めたる舊址なりとぞ

●所澤停車場（埼玉縣武藏國入間郡所澤町）

○所澤　は入間郡の南端秩父街道に衝れる一市街にして戸數凡そ八百戸を有す、此地多く綿布を產し每戸概ね紡織に從事す、驛の入口字河原宿に新光寺あり新義眞言宗にして建久年間の草創に係り本尊聖觀音は行基僧正の作なり、又藥王寺あり曹洞宗にして元弘年間新田義宗の創建なりと云ふ、又此地は川越町を距る南三里三十町なり

永源寺　所澤の南半里許り、久米村八國山の北に在り、曹洞宗にして

龍ヶ谷の竜隱寺に屬し天文年間大石定重の建つる所にして開山を長純禪師といふ、境內幽邃にして本堂には開基大石氏の位牌を安し又一の洪鐘あり當寺の住持雪巖和尙が土中より掘出せしものなりとぞ

小手指原古戰場　小手指原大字北野の西に在る平原にして所澤停車場より西凡そ一里二十町を隔つ●建武年間新田義貞が櫻田貞國を敗り正平七年其子義宗が足利尊氏を困めし處なり、太平記に曰く正平七年閏二月二十日の辰の刻に武藤野の小手指原へ臨み給ふ一方の大將には新田武藏守義宗五萬餘騎を五手に分ち一方には新田左兵衛佐義興を大將にて其勢都合二萬餘騎四方六里に扣へたり、一方には脇屋左衛門佐義治を大將として二萬餘騎是も五ヶ所に陣を取り敵（足利）小手指原にありと聞えければ將軍十萬餘騎を五手に分ち中道よりぞ寄せられける云々（下略）

物部天神社　同所大字北野にあり（停車場の西二十五町）鄕社にして饒速日命を祭り菅公の靈を合祀す、傳へていふ景行天皇四十年の創建にし

て後ち天正十八年前田利家大に社殿を造營すといふ、本社は一丘陵の上に鎭し松樹蓊々として之を圍み拜殿の前に古梅樹あり大納言梅といふ前田利家の手栽に係るものなりと

山口觀音堂　前記の天神社より西南の方半里ばかり山口村字新堀に在り、眞言宗にして東京の護國寺に屬し五庵山眞光寺と號す、寺傳に云ふ昔し聖武天皇の御宇行基僧正此地に巡錫して觀音の像を刻し後ち弘仁年間弘法大師羽州湯殿山に行脚の途次茲に一字の草堂を建立す是れ當寺創建の初めなりと、堂宇は皆茅葺にして二王門、通夜堂、本堂、庫裡等あれとも今は大に頽廢とり

●入曾停車場（埼玉縣武藏國入間郡入間村）

入曾停車場は入間村の内大字南入曾にあり、茲より三十町にして扇町屋驛に到るべし、近傍に名所古跡の案内すべきものなし

●入間川停車場（埼玉縣武藏國入間郡入間川村）

入間川驛　は川越より青梅に至る街道の一驛にして入間川の東岸にあり、市街は南北凡そ八町許りにして戸數凡そ六百戸を有し商業稍や繁盛なり又此地より川越へ二里十町、青梅へ四里なり

堀兼の井　入間川停車場の東一里堀兼村大字堀兼に在り、江戸名所圖繪に曰く淺間の宮の傍らにあるが故に是を淺間堀兼と號せり、此社前は古への鎌倉街道にして上州信州への往還なり今の宮は慶安中松平伊豆守の建立なり、淺間の祠の凹なる地ありて中に方六尺ばかりに石を以て井桁をし半ば土中に埋れたるものあるを堀兼の井と稱せり傍らに川越秋元侯の家士岩田某が建つる所の碑あり高さ五尺餘其文左の如し

此凹形之地所謂堀兼井之蹟也。恐久而遂失其處。因石井欄置坳中。削碑而建其傍。併以備後監。里語堀而難得水故云爾。兼通難未知只從俗耳。實永戊子年三月朔。

土人傳へて云ふ往古日本武尊東征の時武藏野に水乏しく諸軍渴に及ひけ

れば尊村民をして此處彼處に井を掘らしむるに終に水を得されば龍神に命して流れを引かしむ云々

㊐川越停車場（埼玉縣武藏國入間郡川越町）

○川越町　は武藏の北部に於る有名なる一市街にして市坊の數三十四東西凡そ十三町、南北凡そ廿六町、戸數三千五百戸を有す、此地は元と山内房顯の據る處にして太田持資も亦此に治し德川氏江戸に移るに及び酒井重忠を封し明和の初めには松平朝矩、次で松平康英の治所となり明治初年には川越藩を置かれし處なり、町内に川越城趾、郡役所、區裁判所、警察署等あり去る明治六年大火ありて今や多く新築の家を見る鐵道の開通と共に古への繁況を呈するも亦遠きに非ざるべし

三芳野神社　川越町の北隅舊城趾の内に在り、縣社にして素盞嗚尊、奇稻田姫命を祭り太田持資本城を築くに當り守護神として祭祀せしものと云ふ、社殿には本社、幣殿、拜殿、神樂殿、神饌所等にして境内は小

高き丘陵の上に位し且櫻樹數百を植う、春日來り觀る者多し

喜多院　同町の南端字小仙波に在り天台宗にして天長七年の創建に係り慈覺大師を開山とす、境内に東照宮あり社殿壯麗を極む又一株の古櫻あり德川三代將軍の手栽に係るものにして幹は二圍に餘り春風駘蕩花の亂發する頃は頗る美觀なりと

蓮馨寺　同町大字松郷にあり淨土宗にして天文年中の創建に係り大道寺政繁の母寶池院蓮馨大姉の開基なり、本堂は八間四面にして本尊阿彌陀佛を安置し其他の堂宇皆な壯嚴を極めしも惜い哉明治二十六年の大火に際して悉く燒失し今は鐘樓のみを存せり

入間の里　今は其處を詳かにせず、武藏名所考には古へ入間郡を廣くさして云へるなるべしと見ゐたり、古歌あり今之を略す

青梅鐵道

青梅鐵道は甲武鐵道の立川停車場より右に分れ多摩川の右岸に沿ひて青梅町に達するものにして此延長十一哩三十三鎖の短線路なり、其近傍名所舊跡に乏しと雖も左に二三の案内を爲すべし

◉拜島停車場（東京府武藏國北多摩郡拜島村）

拜島は八王子より川越町に至る街道の驛次にして一小市街を爲せり、此地に大日堂あり、高丘の上に峙ち老樹亭々境内に欝茂し風色頗る佳なり此地も亦鮎漁に宜しく旅舍にして料理屋を兼ぬるもの二三戸あり皆鮎漁の案内を爲すべし

◉羽村停車場（東京府武藏國西多摩郡羽村）

此地は多摩川の東岸に在りて多摩川上水の分るゝ處なり、之を羽村堰と云ふ、承應年間德川家綱渠を穿ちて多摩川の水を江戸市中に引かしめ後

め明治十五年石を疊みて水門を改築し閘門を設け開閉を自由にす、其の近傍風色絶佳にして小赤壁の觀あり、又傍らに水道の碑を建つ文長けれども能く其顚末を明かにするを以て左に全文を揭ぐ

水道碑記

詩曰瞻彼洛矣。維水泱々。聖人之設都也。以水爲急。蓋以人須水不可一日缺也。德川氏之開府于江戸也。諸侯會同。商工臻聚者殆一百萬。地窄不能盡容。乃塡海爲陸。而地無清泉民顧渴。將軍秀忠深患之。乃親騎旁索四郊。多摩郡中有一治水臀沸。嘗之味甘。大悅乃命工人浚汚泥鑿田畝東導四里有半。至關口村置閘築堰。導至小石川。埋石地下作闇溝。踰神田川至小川街。分爲兩岐。一過東神田瀉柳原溝。一至神田橋分注城內百邸。本流踰龍閑橋過常盤橋至京橋。此間分二派。一注銀街馬喰街入淺草溝。一注本街折至堀留。過小舟小網街至箱崎入大河。人民各捐私金自引地下。闇溝如布網千區百街無所不注。是爲神田水道。

將軍自命曰井頭。謂市井之源也。而水猶未足。將軍家綱更開玉川水道。玉川發源甲斐山梨郡東流三十八里入海。家綱招市尹神尾備前幹事。備前舉川傍富民莊左衛門清右衛門二人。不別設官吏。二人精工事。測道遠近度地高低。豫算經費六千五百兩。備器具備役夫承應三年。既肇羽村鑿渠八尺廣二尺設閘若干。以備暴溢之虞。東導十四里。至四谷費用不足二人以私金繼之不復稟求(中略)家綱嘉賞賜二人姓玉川。給祿二百石列之士伍云。嗚呼水道之益干都下實莫大。旱不枯雨不溢。源源混々灑然不止三百年干今。民不病一日之渴。且此水流遠性和。百方人民不病癩疫疥癬爲惠也大。如玉川二氏益力干此不少爲勞。又捐金無吝色。其事爲浚法其利及百世。可謂偉也。若神田水道雖有粗記之者。不悉費金多寡及役夫之數。不可得而審。爲可惜焉。余閱舊志略知其顚末。恐歲月之久。功績湮沒後人無可考。因不顧不文乃記其大概。與同志者合力。刻石以垂不朽云。

明治十八年四月

薩摩　肝付兼武識

綱代鑛泉　羽村の西南二里、綱代村秋川の南岸に在り、冷泉にして少量の硫黃分を含み僂麻質斯、疝氣、打撲等に効能ありとて夏日浴客多し又同所の北一里平井村字鹿の島にも鑛泉あり、昔し加賀の兵士中八王子城を攻めて負傷せるもの數名此の鑛泉に浴して創を治したりとて其名漸く世に著るゝに至りしとや、兩所ともに二三の温泉宿あり

◉青梅停車場　(東京府武藏國西多摩郡青梅町)

○青梅町　は西多摩郡中第一の都會にして市街の廣袤東西十二町、南北三町余にして戶數凡そ一千を有し郡役所、警察署等あり、此地は木綿、綿、綿絲等の產地にして世に青梅綿の名あり毎月二七の日に市を開きて其の物產を糶賣す、此地に金剛寺あり承平年間平將門の創建せし古刹にして本堂の前に將門誓の梅あり花は純白にして其實小さく能く熟すと雖も色は尙ほ青色を帶ぶ地を青梅と名けしは此梅あるが爲めならんといふ

停車場の前面に當りて一丘岡の横はるあり琴平山と云ふ頂きに登臨すれば海を隔てゝ遙かに房總の遠山を望むべく廣袤十里の武藏野は悉く雙眸に集まり來りて風色絶佳なり、又此地の旅舍は阪上、若狹屋等を最とし若狹屋は料理店を兼業とす

御嶽山　は青梅町を距る四里にして山上に御嶽神社あり、先つ青梅町より多摩川の北岸に沿ひ西に行く一里餘にして二俣尾村あり村内多くの桃を培養し春至れは田圃は皆紅ゐの幕を張りしに異ならず村内海禪寺と稱する古刹の樓門より望めば殊に美觀なり、行くと二里にして萬年橋あり多摩急流の上に架したる一飛橋にして水面より高きと七八丈、其下は奇岩磊々として起伏し水之に激して玉の如く碎け雪の如く散じ目爲めに眩するの思ひあり橋を渡れば御嶽村人家のある處にして茲より本社まで登り三十町とす、御嶽神社は府社にして大己貴命、少彦名命を祭り崇神天皇七年の創建なり、社地は海面を抽くこと三千八百尺にして空氣清涼、

眺矚決豁、最も遊人の避暑に適す、本社拜殿ともに頗る美を盡し境内に樓門其他攝社、末社數字あり、社前には舊御師の家櫓を連ね皆旅店を業とす、祭日は毎年三月八日、五月八日なり

小河内温泉　甲府別街道の小河内村大字原村に在り、前記の萬年橋を距る四里半の山間に位し道路稍や嶮しくして交通に便ならず、泉質は鹽類泉にして温度低く火力を假りて入浴に供す、近傍二三の温泉宿あるも農民樵夫の來浴するのみにして清潔とはいふ可からず食類の如きも亦稍や不便なり」是にて案内の筆を擱く

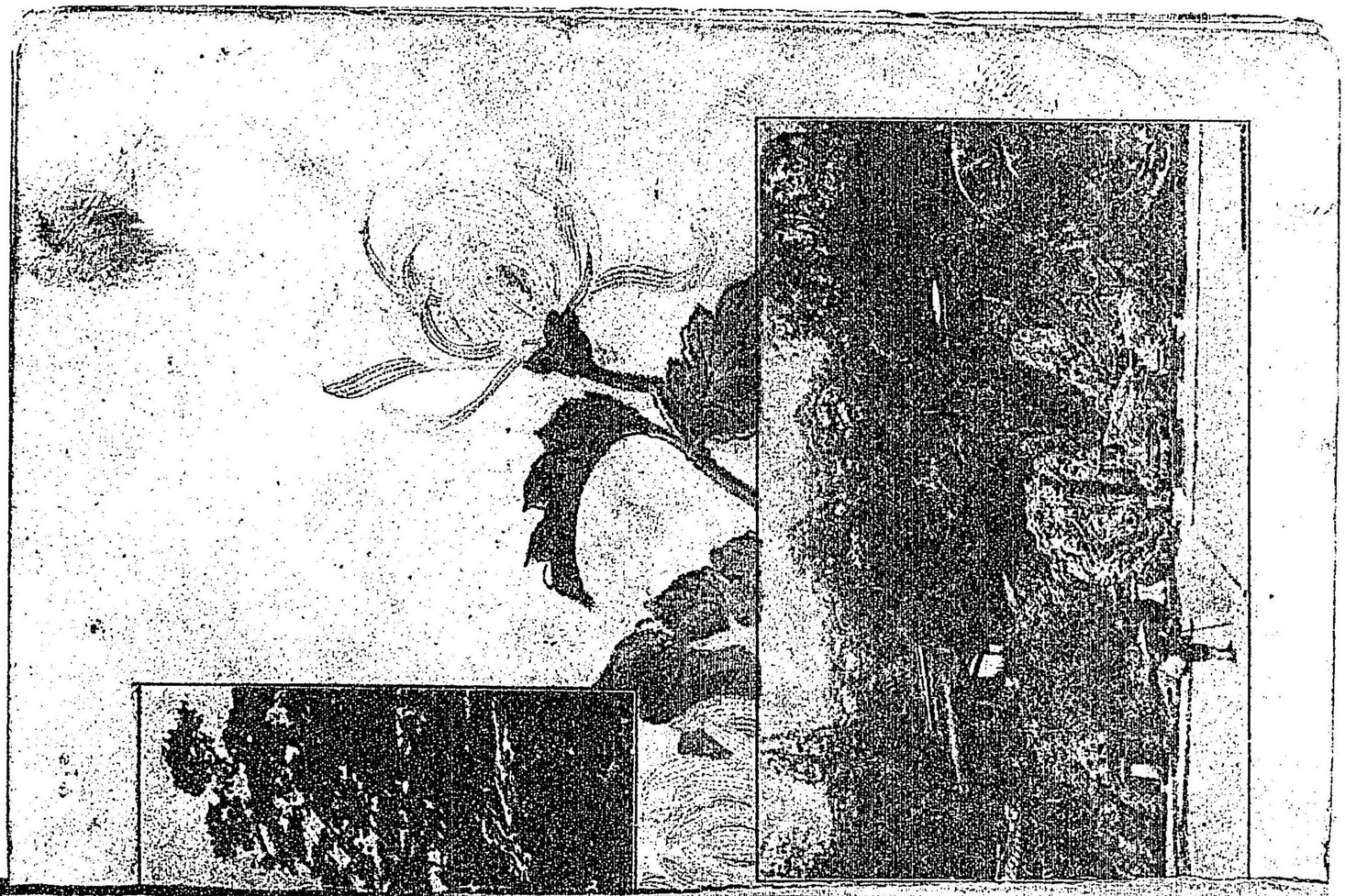
26/11/33

明治卅一年四月廿八日印刷
全　年五月十日發行

名所案內關東之部
定價金三十錢

著作者　東京市下谷區下谷阪本町二十五番地　野崎城雄
發行者　東京市京橋區南傳馬町壹丁目十番地　辻本吉海
發行者　東京市京橋區銀座四丁目拾二番地　近藤音次郎
印刷者　東京市京橋區入船町五丁目一番地　雄秀二郎
發兌元　東京市京橋區銀座四丁目拾二番地　春祥堂
發兌元　東京市京橋區南傳馬町一丁目拾番地　辻本尙古堂
特約大賣捌　東京市神田區表神保町　東京堂
特約大賣捌　東京市京橋區銀座三丁目　文海堂

版權所有



Ⓜ

022780-001-8

71-162

日本全国鉄道名所案内

野崎 左文／著

M31

ADB-0576